

2023

法政大学大学院経営学研究科

法政ビジネススクール





仲間と高めあう場を提供する 法政ビジネススクール

法政大学大学院経営学研究科長
福田 淳児

ビジネススクールに興味を持たれて、このパンフレットをご覧になっているみなさん、なぜビジネススクールで学ぼうと思われましたか？またビジネススクールを卒業したらどのような人材として活躍したいと考えていますか？

みなさんは、企業の中で、日々多様な職務を担い、問題に直面しながら、それらの問題を解決しつつ前進されていることと思います。そのような中で、さらに一歩先に行きたいと思われてこのパンフレットをご覧になられているのではないのでしょうか。

法政ビジネススクールは、そういった問題意識をお持ちの皆さんが、私たちスタッフと共に成長していく場を提供しています。本ビジネススクールの大きな特徴の一つは、各々の方が持たれている問題意識に基づいた学びや研究が追求できる点です。専門性を追求する観点から、本ビジネススクールは、企業家養成コース、人材・組織マネジメントコース、マーケティングコース、アカウンティング・ファイナンスコースといった4つの専門的なコースに分かれています。それぞれのコースに所属する教員もさまざまなバックグラウンドを持ち、多様な研究アプローチから専門領域の研究課題に取り組んでいます。同じ問題に取り組む場合にも、社会学、心理学、経済学など多様な理論的な基盤からアプローチすることが可能です。このことは、本ビジネススクールでともに学び研究を行う皆さんに、専門的な領域について深く、しかも多様な観点からの学びを提供することを可能としています。しかし、同時に、経営に関する問題は、その性格上、多様な問題が入り組んでいます。組織の階層を上がればなお一つの問題に多様な知識が必要とされることとなります。本ビジネススクールでは、みなさんが所属する専門的なコースだけではなく、他の

コースの授業を履修し、他のコースの教員や学生さんとも議論を行うことが可能です。さらに、よりアカデミックな内容を志向した昼間の修士課程の授業を履修することもできます。これによって、専門的な「深さ」と多様な領域にわたる知識といった「広さ」を同時に追求することが可能となっています。

授業には、理論的な内容に重きを置き、それをケース研究などで裏付けるレクチャー形式の授業、実務家の方をお招きして最先端の実務について意見交換を行うワークショップがあります。また、演習では、これらの授業やワークショップで得られた知識を活かして修士論文の作成に取り組みます。演習は本ビジネススクールの大きな特徴の一つです。一人または少人数で教員から密な指導を受けることができます。もちろん、研究者同士、議論を戦わせることもあります。

また、本ビジネススクールのもう一つの大きな特徴は、修士課程だけではなく、社会人の博士後期課程も設置している点です。修士課程を終えられた方のうち、学問の「沼」にはまり込み、研究テーマの一層の追求をしたいと考えられた方が進学しています。その中には、現在、大学の教員として研究生活を送っておられる方もおられます。

これらの学びや研究活動を通じて、現在、みなさんが実務で経験されていることに一貫した意味を見出すことが可能となるかもしれません。実務を通じて肌身で感じた感覚、それを理論的に整理し、まとめ上げる一つの機会になるかもしれません。ぜひ、私たちビジネススクールのスタッフとその機会を共有しましょう。みなさんと議論できる日を楽しみに待っています！



福島 英史 教授

経営トップ／プロにふさわしい洞察力を鍛える

企業家養成コースは1992年の開講以来、昇進や承継、創業により経営者・経営幹部になられた修了生を輩出してきました。本コースでは、経営層・創業を志す人はもちろん、企業内で新たな事業や取り組みに挑戦しようとする人、事業の承継を志す人、企業家の支援に携わる人、社会問題の解決に取り組む人など、幅広い「企業家」を想定し、その洞察力を徹底的に鍛えられるよう、お手伝いをしていきます。

企業家が直面する状況は常に新しく、将来は常に不確実です。その中で的確な決断を下すためには、表面的・一時的な現象ではなく、本質を鋭く見通す洞察力が必須です。企業家養成コースでは、この力を磨くために、まずは経営学の基礎的かつ多様な考え方をしっかりと身に付けることを重視しています。

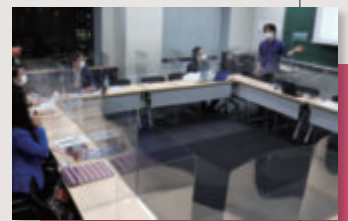
例えば、「ワークショップ」は、企業家本人の口から語られる経験を聴く場です。第一線で活躍している企業家をゲストとして招き、企業や事業を起こした経緯・動機、そのときの苦労や問題点、現在直面している経営上の課題や対応策などについてお話いただき、議論を深めていきます。この双方向的な授業を通じて、参加者は語られる言葉の行間を読み込むとともに、企業家の置かれた立場を想像し、追体験しながら、企業経営の本質を考えることになります。

また、企業家活動、経営戦略論、イノベーション・マネジメント概論、企業間関係論、企業家史、経営史など、企業家の洞察力涵養に欠かせない

科目も、数多く用意されています。経営者・企業家として、企業や事業の全体的なあり方を構想し変革を実現していくため、共通科目などを含めた幅のある学びで経験を相対化しながら、視野の広い長期的な思考枠組みを培っていきます。経営学は、時代の中で揺れ動く企業経営を冷静に見つめる、ダイナミックかつ挑戦的な学問です。長年にわたる経営学の分厚い蓄積の中には、変わりゆく現実を論理的に分析するための有効なアプローチが、数多く詰まっています。それを体系的に学ぶことで、企業家としての思考力を基礎から鍛えていきます。

2年次には、担当教員の集中的な指導を受けながら、アカデミックな修士論文を執筆します。これは、様々な科目の中で学んだ経営学のアカデミックなアプローチを、自らの手で実践してみる作業にほかなりません。一見遠回りに見えても、論文を自分自身で執筆する経験を通して、企業家として必須である論理力・構想力が飛躍的に高まることになります。

本コースには、ビジネスの現場で強い問題意識を持つ多様な経歴の社会人が集まってきます。在学生同士がそれぞれの経験に基づき、実践的な議論を展開することで、卒業生も含む強固なネットワークが構築され、それは修了後も大切な財産となります。本コースで、企業家として必要な洞察力とネットワークを育みながら、経営トップや経営のプロフェッショナルへの道を目指してみませんか。



当コースの授業の様子

●教員紹介

教員名	研究テーマ	教員名	研究テーマ
稲垣 京輔 教授	企業家活動と組織変革に関する研究	福島 英史 教授	産業発展と事業変革
金 容度 教授	企業システムの歴史の国際比較、企業間関係に関する研究	吉田 健二 教授	経営戦略の策定と実行に関する研究
近能 善範 教授	企業間関係とイノベーション	二階堂行宣 准教授	日本経営史・日本経済史
韓 載香 教授	日本産業史、日本におけるエスニックマイノリティ企業史研究		

主な開講科目

企業家活動、企業家史、経営史、経営戦略論、イノベーション・マネジメント概論、企業間関係論、企業家養成演習、ワークショップ（企業家養成）
*他に夜間コース共通科目（7頁に掲載）がございます。

●MBA修了生・現役生の声

自分に必要な“何か”を得られる2年間

私は大学卒業後、某企業を経験した後、家業を継ぐため現社へ入社しました。中国、日本各地での勤務を経ていく中で、このまま経営者となり、この厳しい社会で生き残れるのか、常に自身の中で漠然とした不安を抱えていました。

自主的な学びに物足りなさを感じていた頃、HBSの存在を知りました。立地や方針もさながら、MBAとは、ワークショップやケーススタディ、修士論文とはどういったものか、私は自分に必要な“何か”を得たい一心でHBSの門を叩きました。HBSの授業は少人数で先生との距離も近く、双方向からの活気あるものでした。ワークショップでは実経営者の方々の生の声が聞け、踏み込んだ質問もできました。ケーススタディでは自身の実務上の課題と重なる事柄も多く、いくつも参考にさせて頂きました。修士論文を書くことには不安を感じておりましたが、実際に担当教授の先生と自身のテーマについて考察し掘り下げる行為は、先行研究などアカデミックな観点からも実務を見直すことで、これまで気付

祭本 利樹さん（2019年3月修了）
サイモト自転車株式会社



なかった視点でモノを見ることができたように感じます。しかしながら、それまでの日常と学業を両立することは容易ではありませんでした。平日は仕事を早く切り上げて講義、週末も講義と課題をこなすなど、多忙を極めました。ただ、これまでの人生で最も勉強し、充実した期間だったのではないかと今は思えます。

HBSを修了して得たこととして、日々起こる様々な事柄に対し、以前より確実に、論理的に考え、方向性を見出せるようになったと感じます。あとは何より、価値観を共有できる様々な業界の学友ができたこと、気兼ねなく相談ができる仲間ができたことが最大の糧と思います。

HBSでは学位や知識、論理的思考に加え、得難い人脈が得られました。私にとってそれらが求めていた“何か”だったように、今後HBSを検討する方にも、求めている“何か”がきっと見つかることと信じております。



佐野 嘉秀 教授

人材と組織の課題を考え、実践する人のために

人材・組織マネジメントコースは、法政ビジネススクールが創設された1992年、「人的資源管理コース」としてスタートしました。その後「人材開発コース」、そして現在の「人材・組織マネジメントコース」と名称は変わりましたが、基本的な教育理念は一貫しています。企業等

で現実に生じている人材や組織に関する問題を、アカデミックな理論、実証分析の方法を用いて調査・分析すること、これらをとおして課題の解決に資するような含意を得て、実践に生かす能力を身につけることです。

本コースの特徴の一つ目は、人事、労働、組織というかなり広範な分野の研究者を専任教員として多く配置していることです。研究テーマが幅広いというだけでなく、バックグラウンドとなる学問分野（経営学、社会学、経済学、心理学など）や実証分析の方法（質的調査、量的調査など）も多様です。したがって、院生は人材と組織を考えるうえで必要なさまざまな理論的知識、思考方法を学び、それらを実践的な課題解決に生かす応用力を身につけることができます。

本コースの特徴の二つ目は丁寧な修士論文指導です。論文指導は、一人ひとりの学生を受け持つ指導教員が主に行います。このほかにも、研究テーマの構想やプロポーザルの発表、中間段階の研究報告など節目、節目で、コースの全教員と全院生が参加して一日がかりの報告会を行っています。

ます。報告会では、指導教員以外の教員からも、多面的なコメントを得ることが出来ます。優れた論文の中には学会賞を受賞したものもいくつかあり、また、『キャリア研究選書シリーズ日本の人材形成1.プロフェッショナルの
人材開発』、『同2.女性の
人材開発』、『同3.雇用形態の多様化と人材開発』、『同5.国際化と人材開発』（ナカニシヤ出版、2006～2007年）などとしても公刊されています。

皆さんは、これまで他者と協業するなかで、人材や組織に関わる様々な課題に直面してきたのではないのでしょうか。これらの課題を他者にも理解できるよう客観的に整理し、伝え、課題が生じる原因を解明することをつうじて、解決策を提示することを、私たちはアカデミックな観点からお手伝いしたいと思っています。このようなアカデミックアプローチは現場での実践とは異なり、先行研究の探索や論理的思考を用います。最初はとまどうかもしれませんが、これまでの修了生たちの経験から、アカデミックアプローチを習得することの意義は、ビジネスでもきわめて大きいと、私たちは確信しています。



●教員紹介

教員名	研究テーマ	教員名	研究テーマ
小川 憲彦 教授	組織社会化、組織と個人の適合	佐野 嘉秀 教授	人材マネジメント、雇用システム
奥西 好夫 教授	雇用・人事制度の統計分析、国際比較	長岡 健 教授	職場学習、組織エスノグラフィー
岸 真理子 教授	組織と情報、組織コミュニケーション	西川真規子 教授	ジェンダーと労働、仕事と生活
佐野 哲 教授	労働力需給調整システム、社会政策	戎谷 梓 准教授	異文化間マネジメント、国際チームマネジメント、グローバル人材

主な開講科目

人的資源管理論、キャリアマネジメント論、人事制度論、労働市場論、労使コミュニケーション論、経営組織論、組織行動論、経営情報論、国際人事、人材・組織マネジメント演習、ワークショップ（人材・組織マネジメント）

＊他に夜間コース共通科目（7頁に掲載）がございます。

●MBA修了生・現役生の声

アカデミックアプローチを実践し、成長する時間

私は人材ビジネス部門での就業支援の業務に就いていました。その中で、求人企業の経営課題や求職者のキャリア志向など潜在的なニーズを先読みしてアウトプットする必要性を感じました。そこで、専門的に経営と人的資源管理を学ぶことができるコースがあるHBSへの進学を決めました。

HBSの特徴は、学んでみたいという知的好奇心を「広げる」「高める」「深める」という3方向から成長促進する環境が整っているということに尽きます。

最初に「広げる」点は、学びと人脈です。HBSではコースや研究科を越えて科目履修が可能なため、コース以外の学びや人脈を広げやすいです。

次に、「高める」点は、視座です。授業やワークショップでは、組織や市場など高い視点から俯瞰して考えることができ、より本質的な目的を捉えて意見や議論が出来るようになりました。

そして、「深める」点は、研究テーマや自分自身との向き合い方です。修士論

曾根 悠子さん（2020年3月修了）
パーソルワークスデザイン株式会社



文の執筆では、自分自身が設定したテーマを指導教官とより深く分析し、考察を繰り返していきます。指導の中では検討することが多く、テーマにも自分自身にも深く向き合うため、先が見えず苦しい時期もあります。その中でも私は、指導教官の佐野先生の丁寧で適切なご指導により、新たな視点をアウトプットすることが出来ました。その時の喜びは他では得られないとても良い経験になりました。

HBS修了後、現在は転職をして人事部の人材開発施策を担当しています。キャリアにおいての軸も明確になり意思決定が出来るようになりました。そして、HBSで共に学んだ大切な仲間や、尊敬する先生と修了後も繋がりが持てることがとても嬉しく、励みになっています。

もしも働く中で課題に感じていることがあり大学院への進学を検討されているのであれば、HBSはその課題意識をバネに成長できる環境があると思います。

マーケティングを深く学びたい人のために



田路 則子 教授

マーケティングコースでは、実務での豊かな経験を持ち、研究者としても国内外で業績を積んでいる教授陣が、皆さんをお待ちしています。「マーケティング論」、「流通システム論」、「製品開発論」、「消費者行動論」、「サービス・マネジメント論」といった専門科目で理論を学習し、「マーケティング・リサーチ論」、「統計データ解析」で調査・分析の方法論を身につけ、そして時流にあったテーマで開催される「ワークショップ」で、多数のゲストスピーカーと参加者同士の活発な討議を通して実践的に学び、マーケティングを体系的に深く理解することができます。

1年次には、こうして学んだ理論と実務での課題を照らし合わせ、自分なりの研究課題を膨らませていきます。このことが、今までにない問題意識を持つ研究やビジネスのアイデアをもたらす可能性を高めます。少々難しそうに思われるかもしれませんが、「この理論は何か現実とは違うかも」、「この理論の考え方に当てはめると、現実の問題がクリアになりそう」といった直観的なひらめきで充分です。1年次の終わりには、研究計画の報告を行い、研究テーマに近い専門分野のマーケティングコースの教員が、ゼミ指導教員となります。

とはいえ、「マーケティングの知識もないのに、そんなに上手く研究できるのだろうか」と不安に思うかもしれませんが、心配ありません。皆さん

自身の努力も必要ですが、講義での数多くの仲間との議論や学習によって、楽しみながら理論や方法論を身につけていくことができます。さらに先輩や卒業生もアドバイスをしてくれます。同期や先輩との関係は、マーケティングの深い理解をもたらすだけでなく、かけがえのないネットワーク構築にもつながります。

2年次には、演習（ゼミ）において、教員による丹念な論文指導のもと修士論文を作成していきます。6月と11月に開催される2回の中間報告会では、その途中経過をコースの全教員に報告し、専門的なアドバイスを受けます。このように、担当教員だけが指導するのではなく、コース全体が協力して、皆さんの修士論文の完成度を高めていきます。さらに、卒業後に修士論文を磨いて、マーケティング系の学会発表に臨んだり、博士課程に進んで研究者を目指すことも珍しくありません。

皆さんの研究課題は、我々教員にとっても、実務とアカデミックの新たな接点となりえます。皆さんと一緒に、マーケティングの新しい研究ができることを期待しています。



●教員紹介

教員名	研究テーマ	教員名	研究テーマ
木村 純子 教授	農産物マーケティング、地理的表示保護制度、地域活性化	西川 英彦 教授	デジタルマーケティング、ユーザーイノベーション
竹内 淑恵 教授	広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、消費者行動	横山 斉理 教授	日本型流通システム、商業まちづくり
田路 則子 教授	製品開発イノベーション、ハイテク企業の成長戦略	猪狩 良介 准教授	消費者行動の統計分析、広告効果測定、ベイズ統計データ分析
新倉 貴士 教授	消費者行動、ブランド・マネジメント	長谷川翔平 准教授	購買履歴データの統計分析、マーケティング・サイエンス

主な開講科目

マーケティング論、消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、製品開発論、マーケティング・サイエンス論、サービス・マネジメント論、流通システム論、国際マーケティング論、国際物流論、定性的方法論、マーケティング演習、ワークショップ（マーケティング）

*他に夜間コース共通科目（7頁に掲載）がございます。

●MBA修了生・現役生の声

HBSで得たさまざまなもの

私は市場調査の会社に入社してから10年ほど経過したのちに、HBSに入学しました。同じ仕事を長年続けていると、自分の限界を感じたり、行き詰まりを感じたりすることも増えてきたため、HBSに興味を持ちました。

1年次では、平日夜間と土曜日中に授業を受けました。仕事との両立になかなか苦労しましたが、同級生と一緒にワークを行う講義も多く、マーケティング専攻に留まらず、その他の研究科の方とも知り合うことができ、さまざまな刺激を得ることができました。

2年次では修士論文の作成がメインとなります。自分の問題意識から仮説をつくり、アンケートでデータを集めて実証することを1年かけて行いました。論文作成はHBSの醍醐味であり、指導教員の先生を中心に多くの先生方から懇切丁寧な指導をいただきました。マーケティングの理論と実務を組み合わせる論文を執筆できたことは本当に有意義でした。

渋瀬 雅彦さん（2013年修士課程修了・2020年博士課程修了（博士号取得））
横浜商科大学



修士修了後に、もっと自分の研究領域を深めたいと思い、博士課程に進学しました。最初の数年、まったくもって成果を得られずに苦しみ、もはや諦めてしまおうかと思う時期もありました。そんな時でもHBSの先生方からさまざまなかたちでアドバイスやサポートをいただきました。そのおかげで、8年かけてなんとか無事に博士号を取得することができました。また、博士修了後に大学の専任教員に採用いただき、現在は教育活動と研究活動を並行して行っています。入学する以前は、まったくもって予想していなかったのですが、HBSで得たさまざまな経験やさまざまな人との出会いのおかげで、今のようない仕事に就くことができたと思います。

HBSを検討しているみなさんの中には、いろいろなことで入学を迷っている方もいるかもしれませんが、一度チャレンジしてみたいかがでしょうか。



川島 健司 教授

アカウンティング・ファイナンスという窓から経営の実態を見渡す

法政大学経営学研究科のアカウンティング・ファイナンスコースへようこそ。多様な研究領域の教授陣がみなさんをお迎えします。「アカウンティングとファイナンス」という大きな枠組みのなかに、財務会計論、管理会計論、税務会計論、会計情報論、経営分析、基礎・実証ファイナンス、コーポレート・ファイナンスといった多様な専門科目を幅広く設置しています。大学院での講義はアットホームな雰囲気の中で進められ、質疑応答が活発に行われます。また講義では、理論的な説明のみならず、「ワークショップ」をはじめとする科目を通じて、企業の実務に触れられる機会も提供しています。

こうした学習を通じて、皆さんは理論を学び、それを皆さんの実社会での経験に適用して考えていくことができます。それは、アカウンティングやファイナンスという窓から、身の回りの経営の実態を改めて見渡すことでもあります。おそらく、学習前とは違った風景のように見えてくるはずです。

さらには、学んだ理論を自社の状況に当てはめた際に、「実際の現場ではそのようなことはありえない」という印象を持たれることもあるかもしれません。理論は多くの企業の実務から共通部分を抽出し、またいくつかの基本的な仮定に基づいて組み立てられる性格を持っています。このため、今度はみなさんが理論を修正したり、適用の条件を示したりすることで、皆さんが

学術的な貢献をすることにつながっていきます。

2年次に行われる修士論文の指導では、そうした皆さんの学術的貢献を「修士論文」という形で具現化していきます。それぞれの社会人大学院生が、自らの研究テーマに最も近い教員のもとで個別指導により論文を執筆します。関連した研究領域の教員や、研究方法の面でアドバイスを与えることのできる教員が必要に応じて入れ替わり立ち替わりサポートを行います。

このような一連の過程を皆さんと教員と一緒に経験しながら、現実にある様々な問題を深く掘り下げて考えていくことが、社会人大学院での研究の醍醐味です。ぜひ、アカウンティング・ファイナンスコースと一緒に学習・研究しましょう。皆さんの参加を楽しみにお待ちしております。



●教員紹介

教員名	研究テーマ	教員名	研究テーマ
神谷 健司 教授	中小企業の会計基準のあり方、会計教育プログラムの研究、学校法人会計基準の研究	高橋美穂子 教授	会計数値に基づく企業価値評価
川島 健司 教授	資産の時価測定に関する実証的研究、資産評価の会計基準分析、時価主義会計の学説研究	筒井 知彦 教授	企業会計と利益計算
岸本 直樹 教授	オプション等のデリバティブの価格理論、資産の証券化に関する経済学的分析、住宅ローンの期限前償還、ビジネス教育の研究	福田 淳児 教授	MCS の設計と組織学習、スタートアップ企業におけるMCS の発展
金 瑠晋 教授	企業の財務行動	福多 裕志 教授	日米企業の財務位相分析
倉田 幸路 教授	現代会計理論、EU 会計論	山崎 輝 教授	金融テクノロジー、資産価格理論
坂上 学 教授	XBR L と財務ディスクロージャー、財務数値の分布特性に関する研究、機械学習を応用した会計不正の発見	北田 皓嗣 准教授	CSR マネジメント

主な開講科目

管理会計論、財務会計論、税務会計論、会計情報論、経営分析、基礎ファイナンス、実証ファイナンス入門、コーポレート・ファイナンス、アカウンティング・ファイナンス演習、ワークショップ（アカウンティング・ファイナンス）

*他に夜間コース共通科目（7 頁に掲載）がございます。

●MBA修了生・現役生の声

多くの知識・人財と触れあい、出会うことができる2年間

私は、IT企業の上場準備担当を経て、上場後は同社のIR、M&A及びファイナンス担当役員を務めています。会社が成長していくには、常にたゆまぬ知識を得ていく必要があると考え、最初に法政大学通信教育部で働きながら学びました。

その後、更なる自身の成長を遂げるために必要なことを考えた時に、会計とファイナンスの知識の整理をして、これからの未来を見据えて動ける体制づくりをすることが必要だと考えました。通信教育部での学びが充実していたことから、法政のビジネススクールの門をたたきました。

修士1年次では、会計やファイナンスの科目のほか、他のコースの授業も幅広く受講しました。マーケティングや人材組織に関する科目をはじめ、経営そのものについて自分の興味深い分野について、幅広い知識と見聞を広めることができました。

2年次は、修士論文の執筆漬けの生活でした。先行研究を踏まえて課題を発見し、その解決について探求し、学術論文という形にすることはとても大変でし

た。しかし、指導教員の指導と1年次で学んだ知見や膨大な論文や関連資料を活用して書き上げることは、実務生活では得られない貴重な経験になりました。

いま振り返ると、修士課程は「自らの行動が学びに繋がる2年間」だと考えています。ただ、授業を受けるだけよりも、積極的に教授や同級生と意見交換をすることで、より深い学びを得ることができます。私もその交流の中で、素晴らしい教授陣や多くの夢と目標を持った同級生達と出会うことができました。これは私にとってかけがえのない財産となり、修了後も交流が続いています。

パンフレットを手になされているということは、法政ビジネススクールへの興味を抱いていることかと思います。積極的に学ぶ意思と目標がある方であれば、新たな学びへの道を見つけ出すことができます。修了生の1人として、みなさんの挑戦を応援しています。

仁井 健友さん（2022年3月修了）
株式会社ASJ 取締役 社会保険労務士





宮澤 信二郎 教授

これからの時代を担う企業経営と経営学のプロフェッショナルへ

経営学研究科は、現実の企業経営を題材としながら、組織との中で繰り広げられる人間の営みを研究し、その成果を教育することを目的として設立された研究科です。組織や人間の営みは多様であり、単に現象を追うだけでは、現実の世界で日々生じる複雑な現象の洪水に溺れてしまいます。しかし、表面上は異なって見える現象でも、その根源を探索していくと、共通した原理にたどり着くことがしばしばあります。混沌とした現実をより深く理解するには、原理(理論)を知っていることが重要です。理論を学び、何が重要であるかを見極めることによって、現実の理解を深めていくことが可能になるのです。経営学研究科が目指しているのは、このような思考のできる人材の育成です。より具体的には、教育研究機関・学会等で通用する高度な研究・教育成果を上げることができる研究者・教育者の育成、企業・その他の団体等において高度な経営課題に応えられる経営管理職、専門職の育成をすることを目指しています。このため、企業家養成、

人材・組織マネジメント、マーケティング、アカウンティング・ファイナンスの各コースの共通科目として、基礎的な内容や共通の方法論を学べる科目群を用意しています。

経営学専攻昼間コースは、1992年に従来の経済学専攻から独立し、専門的な経営学の教育を通じて数多くの研究者や高度職業人を養成してきました。このコースでは、経営学の基礎から応用までの理論的なアプローチに加え、現実の企業活動や社会現象を実証的に分析するためのさまざまな手法が学べます。組織、人事、戦略、アカウンティング、ファイナンス、国際経営、マーケティング、経営史など企業経営の諸側面について幅広く研究できるうえ、夜間コースの授業や他専攻の授業も受講することができます。経済学や統計学に関する科目も開講しており、総合的に企業経営を捉える視点を養うことが可能です。講義やディスカッションを通して高度な知識・理論を習得し、さらには、細やかな個別指導のもとで質の高い修士論文を作成することができます。

●教員紹介

教員名	研究テーマ	教員名	研究テーマ
安藤 直紀 教授	企業の国際経営戦略、制度理論の多国籍企業分析への応用	平田 英明 教授	日本の景気動向、日本の金融システム、期待形成と経済政策
大木 良子 教授	競争政策の経済理論分析	洞口 治夫 教授	日本企業の海外直接投資
児玉 靖司 教授	人工知能、大規模授業配信のビジネスモデル	宮澤信二郎 教授	企業の資金調達と競争に関する戦略の相互作用について
高橋 慎 教授	金融時系列データの統計分析	横内 正雄 教授	英国系海外銀行の発展に関する研究
高橋 理香 教授	貿易政策に関する理論および実証研究	李 瑞雪 教授	新興国市場における日本企業のロジスティクス戦略、新興国物流企業の経営戦略
入戸野 健 教授	ネットワークと知識に関する技法、確率的シミュレーションモデル	片桐 満 准教授	金融政策の理論分析、コーポレートファイナンス

主な夜間コース共通科目

経営学基礎Ⅰ／Ⅱ、会計学基礎、経済学基礎、日本経済基礎、情報学特論、e-ビジネス論、統計データ解析、国際経営論、外国語経営学特殊講義Ⅰ／Ⅱ

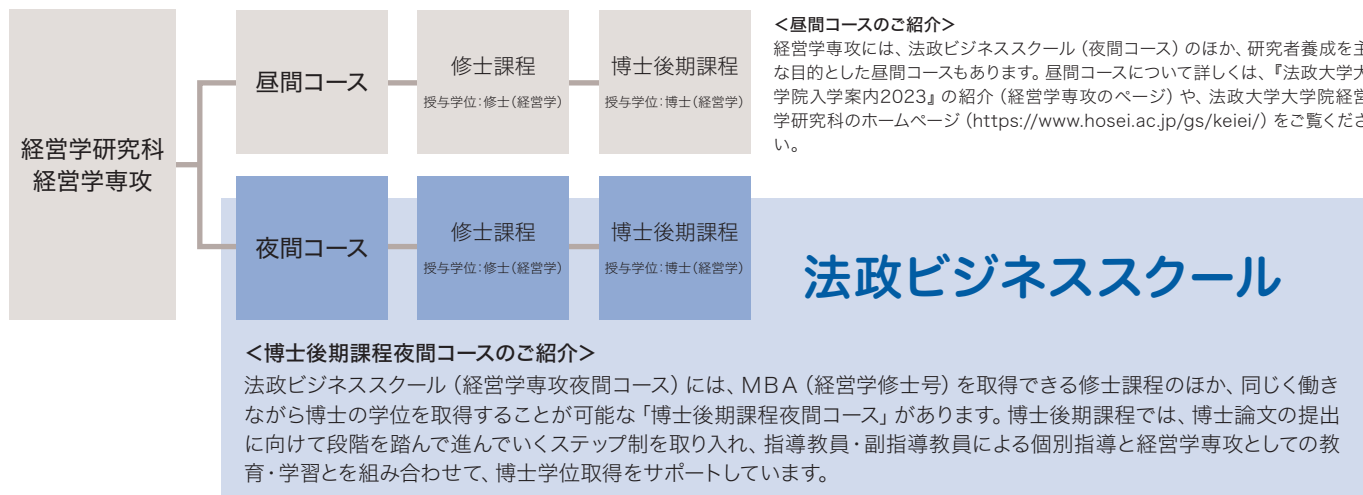
昼間コースの主な開講科目

経営学概論Ⅰ／Ⅱ、経営管理特論Ⅰ／Ⅱ、経営組織特論Ⅰ／Ⅱ、人的資源管理特論Ⅰ／Ⅱ、経営戦略特論Ⅰ／Ⅱ、国際経営特論Ⅰ／Ⅱ、マーケティング特論Ⅰ／Ⅱ、会計学入門、財務会計論Ⅰ／Ⅱ、経営分析論Ⅰ／Ⅱ、財務諸表分析、管理会計特論Ⅰ／Ⅱ、ミクロ経済論Ⅰ／Ⅱ、マクロ経済論Ⅰ／Ⅱ、金融論Ⅰ／Ⅱ、ファイナンス入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門Ⅰ／Ⅱ、国際経済学Ⅰ／Ⅱ、国際金融論特論Ⅰ／Ⅱ、産業組織論Ⅰ／Ⅱ、日本経済特論Ⅰ／Ⅱ、リサーチ・メソッド、経営学演習Ⅰ／Ⅱ

●修士論文の例

年 度	題 名
2021	動画共有サービス企業における探索と活用について—Bilibiliの事例を中心に—
	正負eクチコミが消費者の製品評価に与える影響—中国の非メーカー作成型プラットフォーム上の発信者の専門性による調整効果を中心に—
	女性のリーダーシップに見られるアイデンティティ—ミレニアル世代の中国人女性リーダーへの質的調査に基づく考察—
	価値共創活動が顧客満足、ロイヤリティ及び推薦に与える影響—「アリの森」を中心に—
	エコカーに求める製品価値と消費者行動プロセスに関する研究—日中若年層消費者の比較を手がかりに—
2020	CEOのビッグ・ファイブと企業のリスク・テイキング—Twitterデータに対する機械学習の応用—
	外国人労働者の組織社会化—組織社会化エージェントの活用—
	ライブコマースにおける消費者の購買意欲を誘発する要因
	中国における生配信に基づくインフルエンサーマーケティングに関する研究—フロー体験の視点から—
	組織文化とマネジメント・コントロール・システムの関係に関する文献レビュー

法政大学大学院経営学研究科経営学専攻について



学費(年額)のご案内 ※本学出身者は入学金が免除となります。	修士課程	入学金 200,000 円 (入学時のみ)	授業料 570,000 円	教育充実費 80,000 円
	博士後期課程	入学金 200,000 円 (入学時のみ)	授業料 400,000 円	教育充実費 60,000 円

修士課程（夜間）は、「教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」の指定を受けています。この制度は、修了後本人がハローワークへ申請することで、教育訓練経費（入学金と初年度授業料）の20%（上限額10万円）の教育訓練給付金が支給されるものです。

入学試験について

法政ビジネススクール（修士課程・夜間コース）の社会人入試は2回あり（11月、2月予定）、口述試験によって行われます。出願の際に研究計画書を提出していただきますが、口述試験ではこの研究計画書について希望コースの教員が面接にあたります。募集人員は各コース10名前後です。出願期間、入試日程、合格発表日程については入試要項をご確認ください。

対面授業・オンライン授業について

通常は対面授業を実施していますが、新型コロナウイルス感染症に対する行動方針の大学の行動制限レベルによりオンライン授業も並行して実施しています。本学では感染拡大予防マニュアルを整備するとともに、各教室には消毒用アルコール、飛沫防止用パーティションなどの防止対策を講じております。また、学内に適宜メールなどを通じ、感染症の状況や授業実施方法に関する情報を伝達しています。詳しくは以下のウェブサイトをご参照ください。

新型コロナウイルス関連まとめページ <https://www.hosei.ac.jp/info/article-20200521145917/>

■法政大学大学院へのアクセス

- 東京メトロ有楽町線・南北線
市ヶ谷駅下車徒歩2分
- JR線、都営新宿線・大江戸線、東京メトロ東西線
市ヶ谷または飯田橋駅下車徒歩10分



■法政ビジネススクールについてのお問い合わせは

法政大学大学院事務局（法政大学大学院棟1階）

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-15-2 TEL.03-5228-0551 FAX.03-5228-0555 E-mail : i.hgs@ml.hosei.ac.jp

法政ビジネススクールホームページ <http://hbs.ws.hosei.ac.jp>